

4. 職員研修

(1) 平成17年度公立大学協会図書館協議会研修会（県立長崎シーボルト大学）

① 主催 公立大学協会図書館協議会

② 担当 九州地区（県立長崎シーボルト大学）

③ 趣旨 公立大学図書館の当面する諸問題について研修を行い、図書館職員の知識能力の向上を図る。

④ 日時 平成17年8月18日（木）及び8月19日（金）

⑤ 会場 県立長崎シーボルト大学 中央棟 103 講義室

⑥ テーマ 「大学図書館を取り巻く環境の変化とその対応」

⑦ 参加者 21大学（長崎地区の国立大学、私立大学を含む） 34名

⑧ 日程

第1日 講演1 「図書館改革－大学図書館の組織・運営体制の強化－」

国立大学法人九州大学

理事（副学長） 有川 節夫氏

講演2 「地域貢献への取り組み－こどもたちを対象にスタンプラリーで情報調べ」

国立大学法人鹿児島大学附属図書館

館長 早川 勝光氏

第2日 講演3 「米国の大学図書館における学習・教育活動支援－アールラム・カレッジの事例をもとに－」

国立大学法人長崎大学大学教育機能開発センター

助手 長澤 多代氏

⑨ 報告 研修会の内容をとりまとめ、公立大学協会図書館協議会ホームページに掲載（予定）

⑩ 研修会決算報告

収入 研修会予算 478,000円

支出 講師謝礼 150,000円

講師交通費 54,220円

報告書作成費 122,325円

消耗品費等 12,935円

手数料等 6,200円

合計 345,680円

残高 (返金額) 132,320円

(2) 大学図書館職員長期研修

- ① 主催 筑波大学
- ② 共催 文部科学省
- ③ 日時 平成17年7月4日(月)～7月15日(金)
- ④ 会場 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター
- ⑤ 受講者 国立機関30名、公立大学2名、私立大学7名 計39名
- ⑥ 研修報告

平成17年度 大学図書館職員長期研修 参加報告

京都府立医科大学附属図書館 枚田真紀子

<講義>

「職員の資質と能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させる」という目的に沿って、受講生に大局的な考え方を身につけさせることを意図した日程構成であり内容であったように思う。講義は、現在の大学のおかれた状況を理解し、大学図書館運営全般について考え、学術情報に関する知見を広げる内容や、現在図書館が直面している共通の課題である図書館の電子化・情報リテラシー・情報発信などに関するものなど、多彩で興味深い内容であった。

<企画立案演習>

受講者全員による共同討議・班別に企画立案し企画内容を発表する班討議・プレゼンテーションの実践能力そのものの向上を図るプレゼンテーション演習の3つの企画立案演習がおこなわれた。

*共同討議…「大学図書館運営のあり方」というテーマを、合理化への取り組み及び望ましい上司像・部下像というふたつの切り口から討議した。組織の統合・改組やアウトソーシングなどについて現場の様々な取り組みが発表された。

*班討議…「学術情報の収集・発信の企画」という課題が与えられ、4班に分かれて企画を作成した。漠然とした企画ではなく、対象者を想定した具体的な提案やわかりやすい概略図が要求されており、各班とも研修時間外にも集まって検討を繰り返した。班討議は、厳しくも楽しい充実した実践であった。最終日には班討議の仕上げとして、各班の代表者により「学術機関リポジトリ」「電子図書館の再創生」「電子シラバス e-teacher」「医学文献ナショナルアーカイブの共同構築」の4つの企画発表が行われた。

*プレゼンテーション演習…プレゼンテーションについて講義を受けた後、5班にわかれて演習を行った。事前に個々が作成したプレゼンテーションを検討し、代表者による発表とそれに対する評価を行った。

<見学>

昨年同様国立国会図書館を見学させていただいた。概要とサービスについての説明の後、館内の見学及び資料保存についての講義と修復現場の見学を行った。また、正規の研修内容には含まれていないが、昨年度国立情報学研究所のご厚意で実施された見学会が、好評につき今年度も希望者を対象に実施された。

感想：研修に参加して法人化後の国立大学図書館の置かれている状況が良くわかった。大学において

も大学図書館においても、法人化により様々な局面で「説明できること」が強く要請され、個々の図書館員に対しても経営感覚や情報発信能力が資質として求められていると感じた。この研修で学んだことを時間をかけて自分の中で熟成し、今後の図書館業務に生かしていきたいと思う。

また、この研修で38名の全国から集まった様々な大学図書館の方々と知り合えたことも貴重な財産である。研修時間の内外に親しく自館の現状を話したり、図書館について語り合うことができたことは大変貴重で啓発される経験だった。今後とも頼れる知恵袋としてこのネットワークを有効に活用していきたいと思う。

最後に、このような貴重な経験を与えていただいた公立大学協会図書館協議会に深く感謝しています。また、研修を主催し、期間中も細やかな配慮をいただいた筑波大学の皆様と、忙しい中気持ちよく研修に送り出してもらった職場の上司・同僚の皆様にも厚く御礼申し上げます。

平成17年度 大学図書館職員長期研修 参加報告

札幌医科大学附属図書館 池崎 康

<はじめに>

平成17年度は、公立大学から京都府立医科大学と札幌医科大学の2名が参加し、2週間のカリキュラムを終了した参加者全員に対して、終了証書が授与されました。私は、今回の長期研修に参加することが出来、貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。

会場となった代々木の独立行政法人国立オリンピック記念青少年センターの施設は研修、宿泊、運動、食事等の各施設が申し分なく整備されており、長期滞在中は快適に過ごすことができました。このような環境を準備して下さった関係者の皆様方にあらためて感謝したいと思います。

<講義>

全国の大学図書館等の中堅職員に対し、最新の学術情報および図書館運営等の在り方について資質と能力向上を図ることを目的としたカリキュラムであった。内容としては、「①法人後の図書館運営 ②学術情報の収集・発信 ③図書館の電子化」等のテーマに関連する講義が組みまれていました。本学も数年後に法人化を迎えることが決定しており、法人化後の図書館運営に対する講義は興味を持って聴くことが出来ました。大学の地域公開は全国的な流れであり、本学図書館も北海道の地域医療支援という大学の基本理念のもとで、学術情報の収集・発信を行っています。情報の発信媒体として、インターネットが主流になった時代にあって、これに関連した話題を提供してくれた講義も大変興味を持って聴くことが出来ました。その他、参加者による討議・発表あるいはプレゼンテーション等の実習も組みまれていました。1日のカリキュラムが90分間の講義4本で組みまれており、20数年前の学生時代に戻ったような気分を味わいながら、とても懐かしい気持ちで話を聞くことが出来ました。

<共同討議>

研修前に提示されていた2つのテーマ「大学図書館運営の在り方」「理想とする上司像・部下像」に対して、参加者から経験を交えた意見が活発に出されました。組織の合理化やアウトソーシング等についての利点や問題点が出され、今後の図書館の在り方を考える上で、大変参考になりました。

<班別討議>

研修前に提示されていたテーマは「学術情報の収集と発信」でした。班毎に昼休みや研修終了後のアフター5を使い、プレゼンテーション資料を作成し最終日に発表を行いました。発表の最後に、私たちにとっては耳の痛い総評がありましたが、各班の考え方は、其々独創性があり参考になるものばかりであったと思っています。

<プレゼンテーション発表>

このカリキュラムは、研修前に提示されていた自由課題に対して、各自が準備・作成してきたプレゼンテーションを班内で選抜して、参加者全員に披露する、というものでした。各自、大変ユニークな話題ばかりで楽しいひと時を過ごすことが出来ました。しかしながら、2週間の研修を通じて1点だけ残念に思ったことがありました。それは、参加者全員に披露されたものが4点に限定され、発表されなかった優れたプレゼンテーションがあったということでした。日程の都合上、このような形になったと思いますが、来年度以降、改善されることを期待しております。

<見学>

研修8日目に国立国会図書館を見学する機会がありました。資料の保管や修繕等、一般の利用者では見ることの出来ない部分を見学することが出来、得がたい知識を増やすことが出来ました。資料の保存に関しては、一般の教養資料に混じって少年少女漫画が書架に並んでおり、既に廃刊になっている週刊少年キング等、私の少年時代の懐かしい愛読書が製本されているのを見たときは思わず、「国立国会図書館様、ありがとうございます。」と言って、その本を手にしていました。

<おわりに>

研修中は、学生時代に戻ったような気分で過ごし、懐かしさも感じていました。全国の図書館職員との交流は、何事にも替え難い貴重な経験でした。このヒューマンネットワークは今後の図書館人生で生かされることは間違いないと思います。特に、ある参加者のご助力により、現在メーリングリストが運営されており、ネット上での様々な意見交換が続いています。

最後になりましたが、研修会の担当の先生をはじめ、貴重な経験をさせて下さった公立大学図書館協議会に、また多忙な時期に快く参加させてくれた職場の上司や同僚に対し、この場を借りて感謝申し上げます。